

新規事業採択時評価結果（平成25年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全課
担当課長名：増田 博行

事業の概要

事業名	一般県道 宮古山田線（豊間根工区）	事業区分	地方道	事業主体	岩手県
起終点	自：岩手県下閉伊郡山田町石峠 至：岩手県下閉伊郡山田町豊間根	延長	1.3 km		
事業概要	県道宮古山田線は、三陸沿岸道路と一体となって機能するICアクセス道路であり、（仮称）山田北ICと国道45号を直結する道路。				
事業の目的、必要性	宮古山田線は、三陸沿岸道路と一体となって、 <ul style="list-style-type: none"> ・地域間交流の促進 ・都市間アクセス改善 ・山田町北部及び宮古市南部の復興支援に資する道路である。 				
全体事業費	2.0 億円	計画交通量	1800 台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
山田町より早期整備を要望されている。
また、隣接する宮古市からも三陸沿岸道路の早期完成を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
-

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている。
地域の団体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.4	総費用：17億円 （事業費：16億円 維持管理費：1億円）	総便益：24億円 （走行時間短縮便益：19億円 走行経費減少便益：4億円 交通事故減少便益：1億円）	基準年 平成24年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.3（交通量 -10%）	B/C=1.5（交通量 +10%）		
		事業費変動	B/C=1.3（事業費変動 +10%）	B/C=1.5（事業費変動 -10%）		
	事業期間変動	B/C=1.3（事業期間変動+20%）	B/C=1.4（事業期間変動-20%）			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない。		
		事故対策	○	三陸沿岸道路にアクセスする通過交通は、幅員狭小で通学路が存在する山田町豊間根地区を経由せずアクセス可能となることから、現道の安全性を確保。（現況幅員4.0m（歩道なし）⇒将来10.0m（歩道2.5m））		
		歩行空間	○	三陸沿岸道路にアクセスする通過交通は、幅員狭小で通学路が存在する山田町豊間根地区を経由せずアクセス可能となることから、現道の安全性を確保。		
	社会全体への影響	住民生活	○	三陸沿岸道路へのアクセスが向上し、救急医療施設への速達性向上や地域間交流の促進などの効果が期待される。		
		地域経済	○	三陸沿岸道路へのアクセス向上により復興を支援。		
		災害	◎	三陸沿岸道路と一体となって震災復興を支え、災害時には緊急支援物資の輸送や復旧活動を支援。		
		環境	-			
		地域社会	○	現道区間は幅員が狭く、生活道路として利用されている事から、三陸沿岸道路へのアクセス交通が流入すると、双方の影響が大きい。		
	事業実施環境	○	岩手県東日本大震災津波復興計画の復興支援道路整備事業へ位置付けられている。 山田町から早期整備を要望されている。 また、隣接する宮古市からも三陸沿岸道路の早期完成を要望されている。			

採択の理由

事業主体である岩手県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.4と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、三陸沿岸道路と一体になって、地域間交流の促進、都市間アクセス改善、復旧作業や救援活動を支援する等、当該事業の必要性・社会全体の効果は高いと判断される。
以上により、本事業は平成25年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。